

J S A F 外洋統括委員会 議事録

開催日時： 平成21年2月21日(土) 11:00~13:45

開催場所： 東京・北区 ナショナルトレーニングセンター会議室

出席者： 前田彰一、児玉萬平、浅野英武、小林昇、吉田豊、坂谷定生、平賀威、
外山昌一、浪川宏、大村雅一、足立利男、林賢之輔、高木伸学

オブザーバー： 川久保史朗、大坪明、庄司一夫、豊崎謙

事務局： 寺澤寿一

浅野幹事長から開会が宣言され、議事進行浅野幹事長、議事録署名人に浪川、坂谷の両氏としたい旨が諮られた。承認後、児玉副委員長(議長)の挨拶の後、直ちに議事に入った。この挨拶の中で、委員長の古川副会長はご本人の希望により今限りで副会長・外洋統括委員会委員長を退くことが報告された。

審議検討事項

J S A F メンバー料金の値上げ問題

J S A F 本部を代表し、J S A F 前田専務理事より今回の値上げに関して背景・根拠・経緯の説明がおこなわれた。

背景として、第一に会員の減少が根底にあることが説明され、10年前の統合時に1万5千人いたメンバーが現在1万人強と2/3に減少しているとされた。その結果、事務局・委員会経費・海外経費を極力まで下げ凌いできたが、もう限界であること、収入拡大の道の努力もすぐには報われないこと、さらにこの経済環境の中で賛助会員や協賛企業の減少も予想されることから値上げに踏み切らざるを得なかった、と説明された。

児玉副委員長から、古川委員長よりのコメントとして、「外洋会員の減少とりわけ登録艇に至っては1/2という著しい減少があり、いわばJ S A F 財政の足を引っ張っているのが外洋である、この財政危機に外洋としてできる限りの協力を願いたい」旨の発言があったことが伝えられた。

外洋東海 坂谷理事からは、加盟団体としての意見は値上げに反対である、1000円程度では効果は限定的、値上げをしても今までのままというのは納得できない、値上げの効果を見せる必要がある。

外洋三崎 川久保会長からは、値上げに反対ではないが引き落としまでの時間が短く、手続きに無理がある。引き落としにあたって会員に継続の意思確認を行ったところ30名が退会の意向を示した。統合時540名から現在は470名、更に30名減ることになる・・・なぜキックバックがなくなったのかなど疑問があると発言があった。

外洋湘南 浪川理事からは、値上げは了解するも、本年度は会員には値上げ分を負担させず、その分を団体が負担することにした。引き落としの告知に必要な時間がどうして取れなかったのか、なぜ昨年の理事会で決定できなかったのかという問題が提起された。

外洋近北 吉田理事からは、湘南と同様、本年度は値上げ分を団体が負担することにした。J S A F 本部として、この値上げによっていつまで財政が持つのか?という質問が

出され、前田専務からは5-6年であろうとの回答があった。

他、意見交換があったが、大方は、値上げは仕方が無いものの、この程度の値上げではすぐ先が見えている、やがて来るであろう次回の値上げの際には十分な手続き上の余裕を持ってことに望むべしとの意見であった。

次期外洋組織と人事の変更について

議長より、次期の外洋組織概要案が資料を基に説明された。

1. 外洋統括委員会を解消し、いわば外洋本部とも言うべき、外洋艇推進グループを発足させる。J S A F本部の組織再編の中で、総務・広報グループ、競技推進グループ、普及・強化推進グループと並んで4本の柱の一つである。
2. 外洋レース委員会、外洋ルール委員会は競技推進グループ内のレース委員会、ルール委員会に所属し、外洋艇の代表として活動し、その成果を外洋組織に反映させる役割を担う。
3. 委員会を外洋総務委員会・計測委員会・安全委員会の3つの柱とし、その中に機能別委員会（I R C委員会、O R C委員会、通信委員会など）を必要に応じて設ける。特に外洋総務委員会では艇登録推進機能、地域外洋艇組織の支援などの機能を加えたい。また以上を束ねる横断的な会議体としてオフショアーコミッティーを設け、外洋共通事項を討議する。このメンバーはJ S A F外洋系理事、同専門委員のほか加盟団体の代表者も加えることにする。特別加盟団体からはオブザーバーの派遣を依頼することした。

これに対し、外洋湘南 大坪氏からはオフショアーコミッティーの数が多すぎないか、年何回ぐらい開催の予定か、との質問があり、議長から当面年2回東京開催を前提に考えているので、地方からの参加はあまり見込めないが、事前に資料を流し意見を求める、議事録の配布などの工夫で意思疎通が図れることを期待しているとの回答があった。

4. 各委員会人事についてはJ S A F理事会において組織案が合意された上で、幹事長の浅野氏を中心に候補のノミネートを行い、来期開始までに骨格を構成する旨合意された。なお、浅野氏から今期にて幹事長職を辞する旨が表明された。
5. 浅野幹事長から補足情報として、J S A F次期副会長候補に共に外洋艇の現役セーラー（オーナー）である西岡一正氏、植松真、両氏が指名されている、来月の評議員会承認を経て就任される旨の報告があった。

地域外洋団体のフォロー体制について

議長より、外洋東関東より活動休止連絡が来ている、他の水域でも外洋艇の組織化・登録の推進については多くの課題が在ると聞いている、次期の外洋艇政策の重要なテーマとして地域外洋組織の組み立てを検討したい旨の発言があった。

最初に宮城県連の庄司氏から、宮城県の外洋艇は（社）宮城外洋帆走協会、昨年特別加盟団体になった石巻ヨットクラブなどがあるが、外洋艇競技がきちんとできる体制、外洋部会のもとに各団体が連合していく方向を模索している、については計測・安全の機能

を確立すべく各団体との協議をすすめている・・等々の報告があり、組織の確立にあたり外洋統括委員会のサポートを求められた。

地域外洋組織の支援体制を次期外洋組織の中に機能として取り組む必要性があるとの意見が出され、外洋総務委員会の中に専門委員会を設けて検討を進めることで合意された。

報告事項

- ・ 第50回パールレース準備状況 外洋東海 坂谷理事から本年度もスタートは五ヶ所湾、クラスはIRC, ORCC, TRF (DHクラス)とし全艇利島周りとする。記念事業は未定との報告があった。外洋三崎 川久保会長より鳥羽レースとして鳥羽スタートを強く希望する旨の要望があったが、既定のものとして進めたいとの回答があった。

- ・ ジャパンカップ2009準備状況 関東水域 外山理事から会期は10月24日～11月3日に変更、場所は予定通りシーボニアで行うこととなった。また9月の案内時点ではIRCのみであったが、IRC・ORC-Iの両レーティングとする旨発表された。

これに対し、一旦公式発表をした時点で入っていなかったORC-Iを加えるのは混乱をきたす、との指摘が複数あったが、ORCは発表後JSAFの公認レーティングとなったので追加した、とはいえレーティングクラスの成立には10艇以上の参加が必要であるので、その条件が満たされなければIRCのみになる、との説明があった。

またジャパンカップ開催規程の基準（開催地決定時期、公示発表時期など）に関し、規程が満たされていない問題が指摘された。これに対しては、基本は外洋ヨットのチャンピオンを決める大会に多くの艇が、楽しみを持って参加いただくことを主眼に作業をしており、満たすことが困難な規定の見直しを含めて多くの方々から意見を聞いていきたい旨の回答があった。

- ・ 外洋ヨットオーナーズクラブの経緯について児玉副委員長から説明があった。結論として、この組織はJSAFとは関連のない任意団体、参加するオーナーの任意加盟の団体として2月1日で設立された。将来は特別加盟団体としてJSAFへの参加を目指すが見現時点ではJSAFとは関係なく活動する。織姫オーナー 古川保夫氏が会長に就任されたが、会長の思いは、「外洋艇のオーナー同士、レース派もクルージング派も一緒に酒を飲む、海を語る・・サロンのようなクラブ、そこにたまたま共済会的なサービスとして保険や物販の機能がある・・そういうイメージのクラブになって欲しい」ということである。したがって参加オーナーの勧誘のためにJ-SailingなどのJSAF機能を使用する場合は、有償でそれを受けることになる。
- ・ 計測委員会、林委員長より、一部の外洋団体が機能していないのではないかと、特にIRCレーティングの取得・更新に関し告知がされていなかったり、諸情報が行き届かないケースがおきている。JSAF本部として有効な指導・施策を行っ

てほしい旨の発言があった。

- ・ 他、安全委員会浪川委員長からは全国安全委員会開催の報告、足立通信委員長からは国際VHFに関する総務省省令改正の見通しについての報告があった。

以上、予定された議題をすべて終了し13時45分終了した。

議事録署名人 浪川 宏
坂谷定生